

## 臨床検体使用に関するお知らせ

### 『研究課題名』

経口膵管鏡における膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）における良悪性診断の有用性の検討

### 【研究の背景および目的】

CT, MRI などの画像診断の進歩により、膵疾患の診断は飛躍的に向上している。しかし、これらの画像診断を用いても鑑別診断が困難な症例も少なくなく、経口膵管鏡（POPS）は、膵管内を直接観察することが可能であり、膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）における精密な良悪性診断が可能です。また、IPMNでは、外科的切除の際、切離線決定が重要であり、POPS による直接観察が進展度診断に有用である。POCPS では直視下での生検も可能であり、病理学的評価に十分な病理検体の採取が可能です。

そこで、東邦大学医療センター大森病院消化器内科では、胆管狭窄症に対して経口胆道鏡が施行された症例を詳細に検討することを目的として本研究を計画しました。

この研究で得られる成果は、診断能を上昇させ、今後の診療の向上につながります。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2004年～2018年までに東邦大学医療センター大森病院消化器内科において、IPMNに対して経口膵管鏡検査を受けた症例（約20例）を対象とします。

治療期間の診療録（カルテ）から抽出した採血・画像所見などのデータを解析することにより、適切な治療方法や再発の予防について調査します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

### 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院

消化器内科

職位・氏名 助教 岸本有為

電話 03-3762-4151 内線 77525